

平成 26 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	NPO法人尼崎障害者センター
活動テーマ	東北被災地の障害者作業所物品の尼崎での販売による支援活動



東北からのお客様を迎えて



ふれあい絆市 バザー風景



地域まつり大庄「うず潮まつり」

2015.3.17 読書新聞

宮城産イチゴで障害者がジャム
尼崎のNPO販売

尼崎市のNPO法人「尼崎障害者センター」が、宮城県山元町特産のイチゴを使ったジャム「写真」の予約販売を行っている。同町の障害者作業所「工房地球村」の製品で、東日本大震災の復興支援の一環。4月11日まで受け付ける。同作業所によると、震災で地元イチゴ農家は130軒中120軒が被災。しかし、関係者の尽力で栽培が復活し、2012年にはジャム作りを再開した。1瓶（180g入り）750円。送料無料。作業所のメンバーらが、大きめの粒を一つ一つ丁寧にすのぼりし、約2時間ゆづり煮詰め、甘過ぎない優しい味が自慢などという。

「障害者を持ちながら、復興に向けて頑張っている人たちを応援して」と、同センターの担当者、同作業所を通じて被災地を見守ってほしいと話している。

申し込みはファクス（06・6418・1342）メール（kamsensei@yahoo.co.jp）など。問い合わせは広報さん（0908・793・2133）。

東日本大震災によって東北被災地の障害者の作業所は、建物・人・生活に大きな困難を抱えました。阪神大震災の折り、全国の皆様から温かい支援をいただいた私たちとしても、すぐにも支援活動をしたいとの思いから、市内障害者関連の11団体と連携して街頭募金活動を始めました。

その後、作業所物品を売価で買い、尼崎で障害者作業所・障害者関連団体および尼崎市民団体へ売価で販売し、それを通じて尼崎市内に東北支援の輪を広げようと動き始め、今年3月で3年5ヶ月になります。販売費用や送料は非営利事業として法人が負担します。

東北の作業所の物品についても、あじ味噌・かりんとう・クッキーなど味を覚えてもらって「おいしいから今度もちょうだい」と購入していただける方が増えました。そのことは生産にたずさわる東北の作業所の方々にも喜びとなっているようで、8月に尼崎においてになった作業所職員のかたからも「がんばって作りますから」と伝言を受けています。東北と尼崎の「架け橋」を作りたいと始めた事業ですが、単年度では終わらない中身が作られつつあります。

今回、復活したイチゴ農家から出荷され製作される仙台「工房地球村」のイチゴジャムは、ひと瓶ひと瓶の申し込みが積み重なって、昨年延べ97人432個、現在60人273個になっています。ひと瓶であっても送付無料で送らせていただくのですが、東北を支援したいという気持ちをつなぎ合わせる事ができたことが私たちの最大の成果です。